

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

日産のCSR戦略・マネジメント

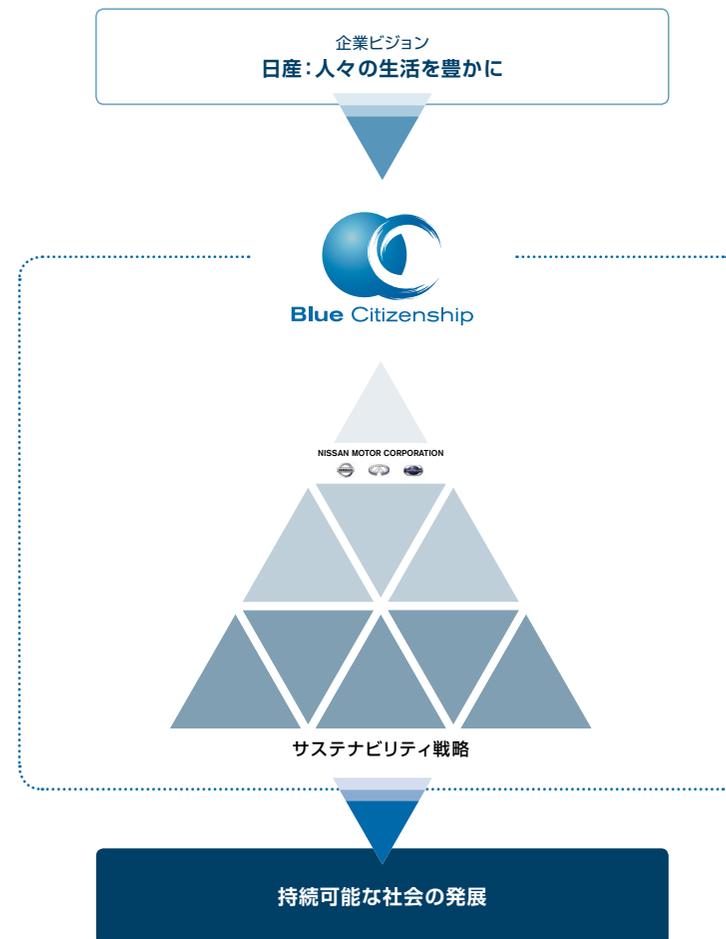
日産は自らの持続的な利益ある成長はもとより、社会全体の持続的発展に貢献したいと考えています。そのために、幅広いステークホルダーの声に耳を傾け、協力し合いながら、社会からの要請を企業活動に取り込む努力を続けています。

日産のCSRビジョン

日産は「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げ、グローバルなあらゆる事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指しています。そして、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、ルノーとの提携のもとにすべてのステークホルダーに提供することが日産のミッションです。

同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、人々が直面する課題の解決に貢献することも私たちの使命です。日産はお客様、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーを大切に思い、将来にわたって価値ある持続可能なモビリティの提供に努めます。事業を通じて経済貢献すると同時に、社会の一員として、持続可能な社会の発展を目指します。

私たちの企業ビジョン	日産:人々の生活を豊かに
私たちの企業ミッション	私たち日産は、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、その目に見える優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。それらはルノーとの提携のもとに行っていきます。
私たちのCSRビジョン	日産は業界をリードする持続可能な企業の一つになることを目指します。



▶ page_14

サステナビリティ戦略の詳細を掲載しています

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

マテリアリティ評価に基づき社会の重要課題を分析

日産のCSRビジョンを達成するために、社会の重要課題を経営会議体で論議し、日産が自動車メーカーとしてグループ会社全体で取り組むべき優先課題を特定してCSR戦略に反映しています。マテリアリティ(経営に重要な影響を与える要因)評価の考えに基づき、自社の潜在的な好機と課題を論議・分析した結果を「マテリアリティマトリックス」として表現しています。

2014年度は主に2013年度に作成したマテリアリティマトリックスの検証を行いました。また、日産にとっても重要項目であり、ステークホルダーの関心も高い「持続可能なモビリティ社会の実現」についての日産の取り組みを説明すべく、本レポートでは「持続可能なモビリティ社会の実現に向けて」という特集記事を掲載しています。

▶ 「持続可能なモビリティ社会の実現に向けて」の詳細を掲載しています
▶▶ page_05

また、今後の経営戦略をマテリアリティ分析に基づいて策定すべく、2014年度に論議を開始しました。

今後、論議のプロセスをさらに強化し、社会の持続的な発展と自社の利益ある成長のバランスを追求していきます。

マテリアリティマトリックス2015



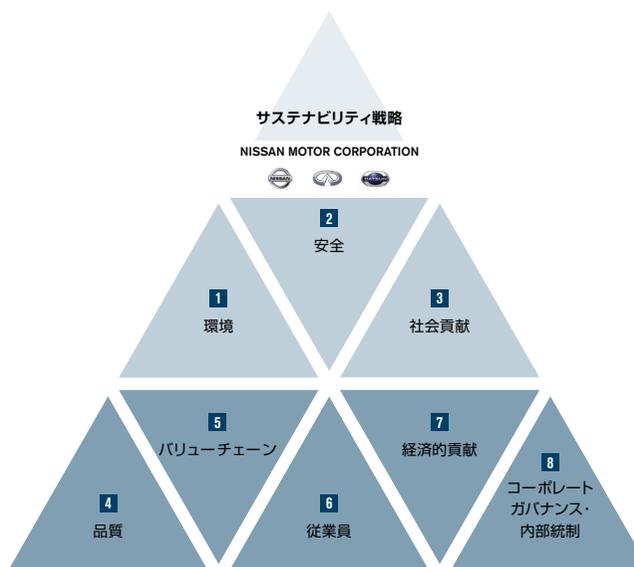
自社への潜在的な影響度(自社への重要度)

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

サステナビリティ戦略

日産は、CSRの取り組みとして8つの「サステナビリティ戦略」を定めています。「環境」「安全」「社会貢献」の3つは、世界をリードする自動車メーカーならではの活動を推進する領域です。クルマというモビリティが潜在的に抱えている課題を解決し、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献するとともに、企業のCSR活動全体を牽引していきたいと考えています。「品質」「バリューチェーン」「従業員」「経済的貢献」「コーポレートガバナンス・内部統制」という5つの領域も、私たちが社会から信頼され、必要とされる企業であり続けるために欠かせません。日産は8つのサステナビリティ戦略を誠実に推進することで企業としての社会的責任をしっかりと果たし、信頼を高めていきます。

8つの「サステナビリティ戦略」



1 環境

持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、クルマのライフサイクルにおける環境依存・負荷を低減し、実効性のある商品・技術を拡大することで、社会の変革をリードしていきます。

2 安全

技術の革新に加え、安全推進活動に積極的に取り組み、クルマ社会をより安全なものにしていきます。

3 社会貢献

「環境への配慮」「教育」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組みます。

4 品質

世界中でトップレベルの製品やサービスをお客さまにお届けします。

5 バリューチェーン

サプライチェーンのあらゆる段階において、倫理的で環境に配慮した行動がなされるよう促進していきます。

6 従業員

多様な人材がグローバルビジネスを通して自らの成長を実感できる、魅力的な組織づくりを目指します。

7 経済的貢献

持続的な利益ある成長を目指します。そして社会全体の経済的発展にも貢献します。

8 コーポレートガバナンス・内部統制

法令と会社のルールを順守し、公平・公正で高い透明性を持った効率的な事業活動を目指します。

CSRマネジメント

推進体制

2011年度から、CSR部は最高経営責任者（CEO）の直轄組織となり、組織上もCSRを経営の中心に位置づけることになりました。

8つの戦略の目標設定や進捗確認など社内横断的な管理については、日産の最高意思決定機関である「エグゼクティブ・コミッティ」が方針や今後の取り組みを決定しています。エグゼクティブ・コミッティには経営に直接携わる副社長以上のメンバー10名が参加。月に1回開催されるため、より迅速で的確な意思決定が可能となっています。2014年度は、7月に開催された経営会議体にて自社のサステナビリティに関する課題を提起し、今後の活動計画を確認しました。

今後も、CSR活動と事業活動を密接に関連させることで、日産の持続的な利益ある発展と社会の持続的な発展という2つの方向性を常に一致させた経営を目指していきます。

CSRに関する意思決定プロセス

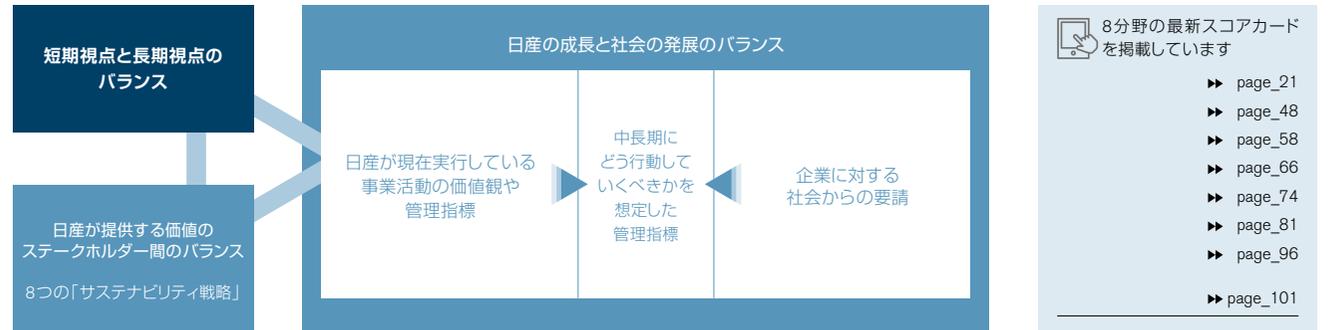


目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

CSRスコアカード

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして、「CSRスコアカード」を作成しています。スコアカードでは、縦軸を8つのサステナビリティ戦略とし、日産が提供している価値のステークホルダー間のバランスをチェックします。横軸では、日産の成長と社会の発展のバランスを追求するために、「企業に対する社会からの要請」を考慮しながら決定した「日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標」と「中長期にどう行動していくべきかを想定した管理指標」「今後の課題」を記載しています。横軸と縦軸の両軸を踏まえ、全体として短期視点と長期視点のバランスを追求していきます。CSRスコアカードはサステナビリティレポートで、毎年公表しています。2014年度にはスコアカードの項目を見直しました。その内容を本レポートに掲載しています。

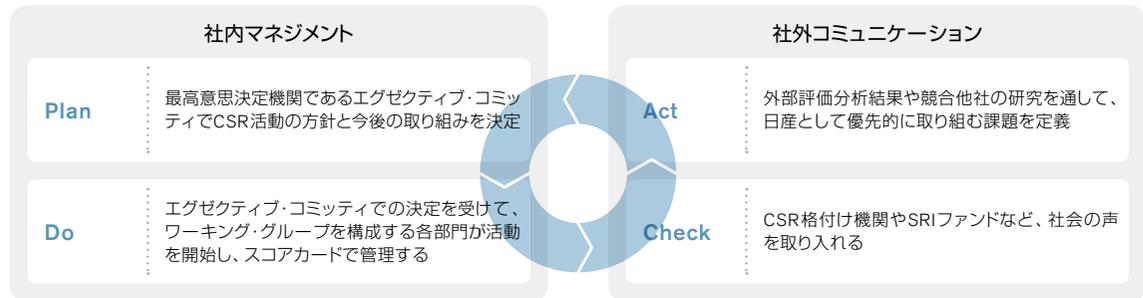
管理ツール「CSRスコアカード」



日産のCSRを推進するPDCAサイクル

日産では、エグゼクティブ・コミッティでCSRの方針を決定したうえで、スコアカードによる進捗管理、社会の声の企業活動への取り込み、外部評価の分析に取り組むなどPDCA (Plan-Do-Check-Act: 計画、実施、評価、改善) サイクルを通してCSR活動を推進しています。2014年度は社会の声、社外の動向を取り入れるとともに、日産のマテリアリティ評価を検証し、経営戦略への取り込みを開始しました。

PDCAサイクル



目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

CSRの社内コミュニケーション

日産では従来、本レポートやウェブサイトを主な媒体として、社外はもとより社内のコミュニケーションにも力を入れてきました。従業員一人ひとりに自分とCSRとの接点は何であるかを考えてもらい、具体的な行動につなげてもらえるようCSRの情報発信を強化しています。

新人研修および新任課長研修においてもCSRに関するセッションを実施しています。従業員向けポータルサイト(イントラネット)である「WIN」[▶]の中の「ブルーシチズンシップ-日産のCSR-」というサイトでは、自社の活動のほか、CSR全般に関するさまざまな情報を掲載しています。

▶ WIN: Work force Integration @ Nissan

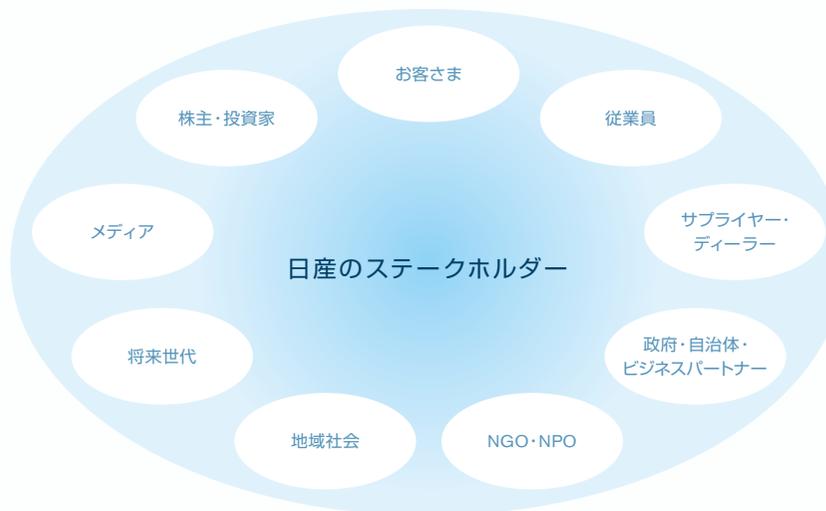
ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。より多くの声を取り入れるために、社会の声に耳を傾け、オポチュニティとリスクの芽を見いだす活動を行っており、ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設けています。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内にフィードバックする体制を構築しています。

ステークホルダーとの対話における具体的な事例は本レポート内で紹介しています。

日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



ステークホルダー	ステークホルダーとの対話の機会
お客様	問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客様アンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス
従業員	問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)
サプライヤー・ディーラー	定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト
株主・投資家	IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、アニュアルレポート、株主通信、メール配信サービス
政府・自治体・ビジネスパートナー	問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、イベント
NGO・NPO	問い合わせ窓口、社会貢献プログラムの運営、寄付、災害被災地支援、イベント、財団を通じた助成
地域社会	各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓蒙活動、財団を通じた助成
将来世代	問い合わせ窓口、社会貢献プログラム、工場見学、寄付講座、イベント、財団を通じた助成、ウェブサイト
メディア	広報問い合わせ窓口、記者会見、広報イベント、プレスリリース、取材対応、メール配信サービス、ウェブサイト


 ステークホルダーエンゲージメントを掲載しています

- ▶▶ page_67
- ▶▶ page_80
- ▶▶ page_73
- ▶▶ page_99
- ▶▶ page_05
- ▶▶ page_57
- ▶▶ page_63
- ▶▶ page_60

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

人権の尊重への取り組み

日産はステークホルダーの人権を尊重しながら事業活動を行っています。「国連グローバル・コンパクト」や各国の法律を指針となる原則とし、各種ガイドライン等を整備しています。また、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域の住民の方々を含めたステークホルダーとの対話を続けながら、さらに取り組みを強化していきます。

 関連ガイドラインをウェブサイトに掲載しています

- ▶▶ website
- ▶▶ website
- ▶▶ website

 人権に関する主な取り組み事例を掲載しています

- ▶▶ page_ 83
- ▶▶ page_ 106
- ▶▶ page_ 79

外部イニシアチブへの参画

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

「国連グローバル・コンパクト」へ参加

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。国連グローバル・コンパクトは、国連のコフィー・アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。

日産では、10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、CSRマネジメントを進めています。



国連グローバル・コンパクトに関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください

▶▶ website

「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」への参画

日産は「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」に加盟しています。WBCSDはビジネス、社会、環境が持続可能となるようグローバルな産業界を導くことを目指した、先進的な企業の連合体です。WBCSDには、あらゆる産業界と大陸を代表する約200の企業が参加しており、その収益総額は7兆ドル以上に上ります。持続可能な発展におけるベストプラクティスの共有や、現状を変革させる革新的なツールの開発を行っています。

また、WBCSD活動の一環として、日産は2013年より開始した「持続可能なモビリティ・プロジェクト2.0」に参加しています。モビリティに関連する企業14社とともに、世界6カ所のモデル都市で自治体と論議をしながら、モビリティを持続可能にするための課題の明確化やロードマップづくりに取り組んでいます。

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)に関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください

▶▶ website

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

社外からの評価

財務面だけでなく、環境や社会性の観点から企業を評価し、投資対象を選ぶ社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)が注目される中、日産はCSR経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んでいます。日産のCSRへの取り組みは社外からも高い評価を得ています。



ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジアパシフィック・インデックス (DJSI Asia Pacific)

「DJSI」は、米国のダウ・ジョーンズ社とスイスのRobecoSAM社による社会的責任投資株価指標。2014年も引き続きDJSI Asia Pacificの構成銘柄に選定されました。



ロベコ・サム・サステナビリティ・イヤーブック 2015

スイスのRobecoSAM社が毎年1月に発表する「サステナビリティ・イヤーブック」において、2015年に、自動車業界部門で「シルバークラス(銀賞)」を受賞しました。

ロベコ・サム・サステナビリティ・イヤーブック 2015に関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください
▶▶ website



FTSE4Good

FTSE4Goodインデックスシリーズ

英国のフィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所が共同出資する独立企業のFTSE社が開発。2014年に行われた評価でも引き続き選定されています。

FTSE4Goodインデックスシリーズに関する詳細はウェブサイト(英語のみ)をご覧ください
▶▶ website



CDPクライメート・チェンジ・プログラム

CDPが実施した、気候変動への取り組みに関する調査「CDPクライメート・チェンジ・プログラム」(2014年10月公表)において、満点にあたる「100A」の評価を獲得しました。パフォーマンス評価では、高い温室効果ガス排出削減の実績を挙げたことを示すA評価を得て、2年連続で「気候変動パフォーマンス先進企業(CPLI: Climate Performance Leadership Index)」に選定されました。ディスクロージャー評価においても、透明性の高い情報開示と、2050年の温室効果ガス総量排出削減目標を掲げていることが評価されました。



モーニングスター社会的責任投資株価指数 (MS-SRI)

日本のSRI指標である、モーニングスター社会的責任投資株価指数(MS-SRI)の2015年構成銘柄に選定されています。



東京証券取引所「なでしこ銘柄」

経済産業省と東京証券取引所が共同で選定している「なでしこ銘柄」(女性活躍推進に優れた上場企業)に3年連続で選定されました。

ダイバーシティに関する受賞情報を掲載しています
▶▶ page_89

インターブランド社「ベスト・グローバル・グリーンブランド2014」

世界的なブランドコンサルティング会社であるインターブランド社が2014年6月に発表した「ベスト・グローバル・グリーンブランド2014」において、ニッサン・ブランドが2013年の5位から順位を上げ4位にランキングされました。

日本経済新聞社「企業の環境経営度調査」

日本経済新聞社が実施した第18回「企業の環境経営度調査」の企業ランキング(2015年1月発表)において、製造業で5位、自動車メーカーでは2位にランキング。環境対応車の取り組みと環境推進体制については自動車メーカートップレベルの評価を受けました。

東洋経済新報社「CSR企業ランキング」

東洋経済新報社が2015年3月に発表した第9回「CSR企業ランキング」で、5位にランキングされました。